

令和4年度第1回坂井市地域公共交通会議 会議録

開催日時 令和4年9月2日(金)午前10時00分～

場 所 坂井市役所防災対策本部室

出席者 三寺会長

住民代表: 木村委員、佐藤委員、内田委員、正藤委員、内藤委員

関係機関: 下平委員、堤委員(代理:小竹原氏)、宮西委員、廣部委員、
吉川委員、江川委員、関委員、島田委員

事業者: 佐々木委員、矢部委員、松田委員

関係部署: 千秋委員(代理:井上氏)、八杉委員、稲葉委員、中田委員 計21名

欠席者 住民代表: 加藤委員、高岡委員

関係機関: 源藤委員

事業者: 長谷川委員 計4名

事務局 総合政策部・西部長、公共交通対策課・長谷川課長、廣部、平尾、藤田

1. 開会

委員出席状況・会議成立を報告 (21/25人出席)

2. 会長あいさつ

三寺会長より挨拶

3. 協議事項

(1) オンデマンド型交通の運行形態の変更について(資料1-1, 1-2, 1-3)

<事務局>

① 対象地区の追加について。丸岡町の磯部地区に鳴鹿地区を、春江町の春江東部地区に春江南部地区を追加し、エリアの拡大を予定。鳴鹿地区は、目的地となる指定停留所が2箇所、区内停留所4箇所、既存停留所が13箇所の計19箇所を追加予定。春江南部地区は、区内停留所が10箇所、既存停留所が5箇所の計15箇所を追加予定。今回、追加される停留所は、主に区長様と調整を行い場所の選定を行った。

片道300円という料金については変わらず運行。

② 予約受付期間の変更について。現在、電話での予約受付期間を土日祝日を除く3日前～3時間前までとしているものを、土日祝日を除く3日前～利用当日の2時間前までに変更する。さらに利便性をよくするためであり、交通事業者様のご理解もいただき、予約受付期間を拡大する。アプリについては変更予定なし。

以上の2点を変更することで、新規の利用者がどれだけ増えるか検証していく。

今回の変更については、所定の手続き等に時間を要すること、また、新たな停留所を製作し、設置する必要があるため、10月下旬ごろの変更を予定している。運行形態に大幅な変更があるため、対象地区の皆さまには、各戸配布やホームページ等で早めの周知を図っていく予定である。

<会長>

既存の(コミュニティバスの)バス停と重複する(オンデマンド型交通の)バス停に関して、これまで実証実験をしてきた中で、問い合わせなどはなかったか。

<事務局>

特にない。

<会長>

併せて、コミバスからデマンド型交通への転換に関して、今後、調査が必要になってくるかもしれないが、どんな感じか。

<事務局>

実証実験の中で、昨年、アンケート調査は行ったが、エリア拡大後もどういったニーズがあるかということは、アンケート実施等で継続していきたい。

<委員>

点線のエリア外にある乗降場所について、丸岡エリア、春江エリアの乗降場所については、相互乗り入れできないという理解でよいか。

<事務局>

そのような認識で間違いない。

<会長>

本件について、意義がなければご承認をお願いしたい。

【異議なしにつき、協議事項承認】

4. 報告事項

(1)コミュニティバスの運行実績について(資料2)

<会長>

磯部地区に関して、日平均の利用者が少し下がっているのは、何か要因があるのか。

<事務局>

昨年 5～7 月までの利用者が多い傾向にあるのは、毎日のように通院のため利用されていた方が 8 月以降、通院の必要がなくなったということが要因。定期の利用者が、一日平均利用者に大きく影響するというのは、事務局としても把握しているところである。

(2) オンデマンド型交通本格運行に向けたエリア拡大について(資料 3-1, 3-2)

<事務局>

資料3-1参照(令和 4 年1月～運行予定の全体イメージ)

オンデマンド型交通は、近距離移動のための交通手段と位置づけている。近距離とは、概ね車で30分以内で移動できる範囲で考えている。また、コミュニティバス接続ルートに代わる交通手段として考えており、将来的には、接続ルートについては廃止していくことを想定している。

資料のとおり「三国エリア」「春江・坂井エリア」「丸岡エリア」に区分けし、基本的には、それぞれのエリア内での移動のみとする。別のエリアに行くときや、市外に行くときは、コミュニティバス基幹ルートや、路線バスや、鉄道などを利用していただきたい。例外的に、需要の高い病院、商店などは、特別にエリア外でも行ける指定停留所として設定する予定。

病院や、商店などの買い物先には、積極的に停留所を設置したいと考えており、調整を行っている。併せて、各集落内の停留所は、各区から要望のある箇所に停留所を設置する準備をしている。

停留所については、電柱巻き付け形での設置を基本としていたが、雨よけ機能のある集会所や公園や掲示板への設置などの要望もあり、なるべく要望に沿う形で柔軟に対応している。また、既存のコミュニティバス停留所には、表示板にシールを貼りつける形で活用する。

これらが整い次第、1月の本格走行に向け、公共交通会議を開催し、協議いただきたい。

<委員>

来年度以降、コミュニティバスを改変する中で、テクノポートへの運行地域拡大は計画していないのか。もうひとつ、本格運行の際に、土日運行についてどのように考えているか。

<事務局>

テクノポートに関しては、今あるコミバスを走らせることは予定していない。土日については、今後、ニーズの高まりがあれば、将来的には検討をしていく。

<会長>

従来、鉄道で移動していたお客様がオンデマンド交通に転換が起きるのではないかと気になるが、えちぜん鉄道さんの考えは。

<えちぜん鉄道>

電車からの転換というよりは、電車を使ってきたお客さんがどういう手段で目的地に行くかというツールであると把握している。

<委員>

バス停留所の半径10メートル以内は道路交通法上駐停車禁止になるが、置き型と電柱巻き付け型や貼り型も同じような扱いでよいのか、疑問。

<福井運輸支局>

いわゆる、路線バス用のバス停は道路管理者の許可をもらって置くタイプになるが、デマンド用の乗降場所というのは、道路運送法上は正規のバス停と同じ扱いをしない。事務局は便宜上「停留所」と呼んでいるが、路線バスのバス停とデマンド用の乗降場所とは法律上は別物扱いである。そのため、電柱とか掲示板に、乗り降りする方がわかるように貼っていたければ構わないような扱いになっている。

<会長>

この件で苦情などは？

<事務局>

実証実験の中では、そのようなクレームや指摘はない。また、この集落内の停留所の設置にあたっては、集落の中の意見は十分にお聞きし、問題がないかということなど慎重に協議し、対応しているという状況である。

<委員>

コミュニティバスのバス停になっていないようなところも、オンデマンドでは指定していたいているのか。

<事務局>

ご要望に応える形で対応する。

<委員>

今、走っているバスは、歩行器が必要な方や足腰の悪い方は乗降が難しいが、オンデマンド型交通では改善されるのか。

<事務局>

車両は実証実験に引き続きタクシータイプを想定しており、バスタイプに比べ、そこまで負担なく乗り降りしていただけるのではないかと考えている。将来的には、低床車両のタクシー車両の導入も考えている。

<会長>

運行予定の 8 台はすべてが小型のタイプなのか。

<事務局>

1 月の開始時にはタクシー会社所有の普通のタクシー車両でスタートしたい。将来的にはユニバーサルデザインタクシー車両の導入も検討していく。

<会長>

観光サイドからのお話もお伺いしたい。

<DMO さかい観光局>

坂井市は人口が 9 万人、観光客が概ね 1 日 1 万人。データを押さえると観光客 1 万人のうち、どのぐらいが潜在利用者なのかというところが見えると思う。コロナ禍もあって、市民の、市内の観光というのが大きく動いている。娯楽・レジャー・飲食でオンデマンドを気楽に利用できる、観光型の取組というのを、次のステップとして目指すべき。

今、坂井市内にきている観光客の 7~8 割ぐらいが自動車利用、残りが公共交通の移動が必要な方と捉えているが、今後、北陸新幹線が開業すると関東からのお客さんが確実に増え、自家用車の比率は下がる。新幹線で来られたお客さんがどのような交通手段で当市内を回るのかというのは、我々も勉強しなければならないと思っている。三国駅と東尋坊の 2 か所で観光案内所を運用しているが、窓口に来られる観光客の方、あるいは電話での問い合わせのかなりの部分が公共交通に関することである。東尋坊で、丸岡城への行き方を聞かれるが、非常に回答が難しい。オンデマンド交通は、まずは住民が中心の事業だと思うが、次のステップとして、オンデマンドで坂井市内の観光地間を結んでいくかというのをそのうち検討できたらと思っている。

<会長>

事務局では潜在利用者について全域的に調査をされるという予定は。

<事務局>

交通事業者さんと役割分担をしながら、まずは市民の日常を救うことを目的としてオンデマンド交通事業を開始するため、あくまでも日常というところに特化して調査を続けている。観光視点の二次交通は、観光部局と協議を深めているが、また別の調査が必要だろうと感じている。特に新幹線開業後の二次交通に関して、福井駅、芦原温泉駅、小松空港の 3 つからのアクセスをどのように強化していくかということが着眼点であると認識している。

<会長>

将来の坂井市の公共交通を考えていくという意味では、観光視点で乗合交通をどう確保

していくかということ、今の時点から議論するのは無駄ではないと思うので、今日のご指摘を是非とも次に活かしていきたい。併せて、実際公共交通を使って観光をされている方々に、昨年、大学の研究室で調査させていただいたが、新幹線開業後、そういった層への拡大という、広い視点で検討が必要ではないかと思われる。

5. その他

<事務局>

前回の会議で、市役所前バス停留所にバス枠(道路標示)がない件について、ご指摘いただいたが、年度内に道路標示を行う予定となったことを報告する。

6. 閉会